

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373500145		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	前山ホームらく楽 (東)		
所在地	愛知県常滑市金山字前田129		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&UgyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成30年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入所に至ったとしてもなるべく自宅で生活していたスタイルを継続できるよう自分で出来る事はやって頂くよう働きかけている。 外出や行事など利用者様全員が参加していただけるよう努めている。 地域の盆踊りや防災訓練など打ち合わせから参加し地域の方と日頃から交流を深めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>稲刈り後の黄色い稲株田が広がる一角に、オレンジ色の屋根とクリーム色の壁の1階建てのグループホームがある。当地に移転して10年を経過する中で、昨年職員みんなで見直しして作成した事業所理念に沿いながら「ひとり一人を大切に、自宅にいた時と同じような生活スタイル」が継続できるよう支援に取り組んでいる。運営推進会議の充実や外出支援にも力を入れている。外部評価調査直前に管理職の異動交代があり、まだ慣れない業務の中で管理者は、前管理者のサポートを受けながら職員と共に現状のケアを継続し、培ってきた地域との交流や外出支援を更に深めていきたいと意欲的な抱負を保有している。環境に恵まれた地域の中で、入居者は散歩をしたり趣味の折り紙で作品を作り自室や廊下を飾ったり、入居者同士語りながらゆったり過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域行事に積極的に参加し、地域の方々へ施設の理解を深めている。 ・事務所に理念を掲げ一人ひとりの思いを大切に自立支援に努めている。	地域に密着し、ひとり一人の思いを大切にしたい理念は、玄関や事務所に掲示されパンフレットにも大きく記載されている。職員は常に意識して行動し、何か迷ったときには理念に立ち返り、それに基づいたケアを行っている。カンファレンスや年2回の人事考課面談では理念に基づいた支援が実践されているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・盆踊りなどの行事に参加し地域との交流ができています。 ・町内会に入っており行事の打ち合わせにも積極的に参加している。	町内会に加入し、管理者は町内会役員を務めており、地域行事等には運営から関わるなど地域と密接に交流している。盆踊りやゴミステーションの当番、町内の清掃活動等に入居者とともに参加している。敬老会や忘年会には地域の人を招いたり、日々の散歩でも交流を深めている。中・高生の職場体験や福祉体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議後などに行事をすることで民生委員、区長、地域の方に参加してもらい現状を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一度行い活動報告を知っている。	入居者家族や区長、民生委員、行政、地域包括支援センター職員、法人職員等の参加を得て2か月に1回開催している。事業所の運営や活動状況、入居者の生活状況等をプロジェクターを用いて報告し、参加者から出された意見やアドバイスは運営やサービス向上に活かしている。会議内に行事や勉強会を組み込み家族等が参加に興味を持つ工夫をしている。議事録は家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・会議に出席していただき実情をお伝えする事で施設の様子を知っていただいている。	運営推進会議に行政の出席が毎回あり、事業所の状況や取り組みを伝えている。申請代行等で窓口を訪れて相談などを行い指導やアドバイスを受けている。包括支援センターから案内される研修に参加したり、市や包括支援センターと相談して困難事例の受け入れを行うなど協力関係を築いた取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全ての職員が拘束について理解ししないように努力はしている。 ・離設予防のために玄関の施錠はしている。	法人内の研修や3か月毎の「身体拘束廃止委員会」で拘束の意味を再確認し、事例を通して話し合い拘束のないケアに努めている。運営推進会議で家族を含めた勉強会を開催し、家族の理解も深めている。安全のためのベット柵や玄関施錠等安全と拘束のバランスについて模索している。スピーチロックに対しては高い意識を持ち、お互いに注意喚起できる環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加し、防止に努めている。 ・職員同士お互い注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・青年後見人制度を利用されている利用者はいるが、改めて学び話し合う機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所申し込み時点から不安・疑問点を尋ね、契約時に十分な話し合いを行うようにしている。 ・改定の場合は事前に書面で案内・会議などで報告し理解、納得していただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の面会時には日頃の生活の様子を伝えると同時に、家族からの要望も聞く事で支援につなげるよう努めている。	入居者からは日々の関わりの中から要望や思いを聞き、家族からは面会時や運営推進会議等来所時に意見や要望を聞いている。来所の少ない家族には電話をする機会を積極的に作りコミュニケーションを取るよう配慮している。ご意見は、申し送りノート等で共有を図り、支援内容に反映させている。要望については出来るだけ迅速に応えるように努めている。意見箱の設置を検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的に面談があり、意見交換をする場はある。	日常業務の中で、職員間でしっかりコミュニケーションが取り、意見が言い易い環境を作っている。管理者はカンファレンスや申し送り時等で随時意見を聴いている。個別には年2回人事考課の面談があり、意見や提案、要望等を聞く機会があり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・福利厚生の充実 ・一年に一回能力によつての昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・非常勤にも研修があると思う。 ・面接などで要望を聞き、希望する外部評価に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・勉強会やクラブ活動を通じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・認知症の症状が重く把握できない方もいる。 ・意思疎通できる方、家族からは今困っている事、不安な事を聞き安心した生活が送れるように支援方法の提案、説明する事を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会された際、最近の様子をお伝えし、家族の意見にも耳を傾ける姿勢を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族が安心、安全な生活が送れるよう社会資源も含めた支援方法も説明している。 ・少ないが他のサービスの利用を開始できた利用者もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共にできない方もいるが、出来る限り職員も一緒に会話しながら行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・支援方法を家族に相談したり、家族と外出したりと施設、家族が共に本人を支えていく関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・親類、友人等が気楽に会いにきていただけるような空間作りに努めている。	入所前から利用していた馴染みの美容院やスーパーの利用等家族の協力を得ながら支援している。地域の祭りで知人と出会い旧交を温めたり、気楽に親せきや友人が訪ねてきやすい環境作りに心がけ馴染みの人との関係支援に努めている。また、それぞれが地域のかかりつけ医で継続的に通院をしており、待合室での顔なじみとのコミュニケーションも楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の人間性、状況を把握し場所の移動や職員が中に入りコミュニケーションをはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した利用者家族が行事のボランティアに来てくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来るだけ利用者との会話をする機会を設け希望や相談に答えるようにしている。 ・職員同士でも情報を共有し解決できるようにしている。	入居者それぞれのコミュニケーションの難しさがある中で、出来るだけ会話やふれあいの機会を増やし、信頼関係作りに努め意見や希望を聞くようにしている。得た情報は記録し、職員間で共有して実現に向けた努力をしている。意志の表出の困難な入居者は、表情やしぐさ、生活歴や家族からの情報を基に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時のアセスメントで今までの生活、環境、家族構成などを聞きとり職員同士情報の共有をしている。 ・家族からも情報をもらい今まで生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の変化を見逃さないように変化があれば申し送りや記録などを活用し職員全員が把握、注意して観察するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアマネージャーを中心に職員ミーティングで問題点、改善点など意見交換をしケアプランに反映させている。	介護計画は毎月のカンファレンスで情報交換を行い、3か月に1回のモニタリングで状態の確認を行い6か月ごとに見直しを行っている。面会時等の家族の意見や要望、入居者の思いを取り入れながら、医師や看護師、職員間の意見交換を行いチームとして現状に即した介護計画を作成している。状況に応じて随時の見直しもを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の変化の記録はしているが、ケアプランを反映した記録がすくない ・記録の中に気づいた点をミーティングなどで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者に変化やニーズがあればそれに対応できる方法を検討し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・図書館、喫茶店、スーパー、公共施設などその利用者にあった社会資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医師と連携を取りながら医療を受けている、また受診報告を家族にしている。 ・家族の方をお願いできる時は受診をお願いしている。	入居前のかかりつけ医の受診を継続している。受診は家族の協力を得ているが困難な時は支援をしている。受診結果は記録し、申し送りで周知シケアにつなげている。家族への報告も行っている。受診にかかわる情報や薬の管理は看護師が行い、24時間連絡が取れるようになっている。協力歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調に変化があればすぐに看護師に報告、指示を受けている。 ・いない日も記録を残し相談している。 ・24時間看護師と連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院で行われている連携会議に積極的に参加し病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・早い段階から家族と話し合い終末期の支援方法を説明している。 ・看取りに入る場合は家族と話し合い、かかりつけ医師と看護婦と連携を取りながら進めている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し意志の確認を行っている。状態の変化があった場合にもその都度確認を行っている。看取りに入る場合は家族と話し合い、かかりつけ医や看護師等関係者と連携を取りながらチームで支援に取り組んでいる。マニュアルを整備し、メンタルカウンセルを含め年1回研修を行っている。運営推進会議で見取りについての説明を家族に対し行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変や事故発生時の初期対応の話し合いはしているが訓練までには至らない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害時のための避難訓練を定期的に行っている。	年2回の日中と夜間を想定した火事や地震の避難訓練を行っている。年1回は消防署立会いの下で行い、訓練を総括してアドバイスや指導を受けている。市の防災訓練に職員が参加したり、近隣との協力体制についても話し合いをしている。水害に関してはどのような災害が想定されるか模索検討中である。備蓄は業者委託であるが、別棟に入居者と職員数分が1週間分確保されている。火災警報器や通報設備設置場所の問題は継続検討中である。	火災警報器や災害通報機器が設置されている部屋は薬品が管理されているため施錠されている。緊急時に即座に誰でも対応できる方法を継続して検討することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・言葉遣いにはきを付けるよう指導されている。 ・接遇改善活動を行い毎日の目標を決め適切な声かけ対応の自己啓発に努めている。	法人の接遇委員会研修がある。接遇改善活動として、毎朝取り組む目標を決め、夕礼で取り組み内容についての反省を行っている。「禁句集」や「言葉の言い換え表」などを目につくところに貼るなどして言葉使いに配慮している。親しさが馴れ馴れしさにならないよう、また敬意をもって接するよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・希望を表現出来る方、決定できる方はその思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の都合や体調によって食事や入浴の時間をずらしたりと本人が無理なく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝の整容、服選びなど各自で行って頂きおしゃれを楽しんでいる。 ・汚れていたり、季節にあわない場合は声掛けし着替えていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食時食いたい物などリクエストを聞きできる時は一緒に料理していただいている。 ・盛り付け、食器洗い、片付けは毎食後一緒にこなう。	朝と夕食は配食業者の食事であるが、昼食は入居者の希望を取り入れたメニューを職員が作り調理している。入居者の能力に合わせて調理や盛り付け、後片付けを職員と一緒にやっている。手作りのホットケーキやおはぎなどをレクリエーションとして入居者と作ったり、畑で作った野菜を調理したり、寿司の取り寄せ、外食ツアー等食べることを楽しみを工夫している。嚥下体操を毎朝行い咀嚼機能を維持できるような支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂取量を記録して一定量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを誘導し夜間は義歯を預かり洗浄している。 ・ご自分で出来ない方マウススポンジで洗浄をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのパターンを把握した上でリハパンやオムツ、布パンツを使い分けている。 夏場は布パンツにするなど気持ちよく過ごせるよう努めている。 	<p>排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、動作や素振り、適切な声掛け等で排泄の自立を目指した支援をしている。失禁では原因を皆で話し合いその人に合った支援の継続に努めることで自立支援の成果に繋がったケースもある。夜間は睡眠を優先しながら、状態によって誘導などの支援を行っている。便秘予防には、薬に頼ることなく自然排便を目指して水分や食品、運動などを取り入れている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 便秘薬以外にも水分を多めにとったり、朝食にヨーグルトを提供したりと予防に努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入浴の好きな方は入浴回数を増やしている。 	<p>基本的には週2～3回の入浴であるが、希望あれば毎日の入浴も可能である。湯の清潔には留意し、機械浴は毎回、個浴は状況により湯の入れ替えを行っている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節の湯を楽しんだり、冬季はヒートショックに配慮する等、快適な入浴環境を整えている。入浴拒否される方にも声掛けを工夫したり、時間をずらすなどで支援を行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 季節に応じ寝具を変えている。 パジャマ、タオルケットなどこまめに洗濯している。 昼寝や居室での休息は自由に行っていたい。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 理解しているとはいえないが服薬の変更がある時は看護師より報告を受けている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 家事作業や季節の飾り付け、録画した歌番組など施設内でも楽しめるよう努力している。 それぞれ合わせた役割をもっと増やしていこうと思っている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> スーパー、図書館、喫茶店、季節行事、地域の行事などにも参加し希望にそった外出が出来るよう支援している。 	<p>自然が豊かな立地であり、毎日の散歩など四季折々の風景が楽しめる環境となっている。近所のスーパーや喫茶店、希望により図書館や洋服を買いに出かけるなどこまめな外出支援に応じたり、初詣や花見、いちご狩りやブドウ狩り等のイベントを多く計画し皆で参加できる外出支援に取り組んでいる。誕生日には好きなところへ出かけたり、墓参り等は家族の協力を得て支援をしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には自己管理はしていないが、職員が立て替えし買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望があれば電話できるようになっており用事のある利用者は時々かけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・常に季節の花や工作作品を飾っている。 ・週に一回居室の掃除を共にやり清潔を保っている。	平屋建てで吹き抜けの高い天井は明るく開放感がある。東西ユニットが同じ作りとなっているが、それぞれに季節の花や作品で飾りつけをしている。イベント時の写真などを飾ることによって、会話のきっかけを作り、コミュニケーションの促進を図るようにしている。換気を細目に行い、温・湿度に配慮し、入居者と共同で毎日掃除を行う。入居者が心地よく過ごせるように工夫している。入居者はテレビを観たり会話をしているのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自由に自分のお部屋にいき個々に自由な時間をたのしんでいる。 ・隣のフロアも自由に行き来でき会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を持って来ていただき御本人が落ち着いて生活できるように配慮している。	居室入り口は入居者の作品やのれん、折り紙等で飾られ自分の部屋と認識できるように工夫している。ベットやエアコン、カーテン、クローゼットは備え付けとなっているが、小ダンスや小物など使い慣れた物や思いでの写真などを持ち込み、自分らしい居心地の良い空間を作っている。入居者は職員とともに掃除機を使って清掃したり、折り紙を折るなど自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はバリアフリーで廊下には手すりを配置している。 ・トイレや居室の前に貼り紙名札等で混乱せず安全で自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373500145		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	前山ホームらく楽 (西)		
所在地	愛知県常滑市金山字前田129		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&UgyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成30年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所に至ったとしてもなるべく自宅で生活していたスタイルを継続できるよう自分で出来る事はやって頂くよう働きかけている。
外出や行事など利用者様全員が参加していただけるよう努めている。
地域の盆踊りや防災訓練など打ち合わせから参加し地域の方と日頃から交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

稲刈り後の黄色い稲株田が広がる一角に、オレンジ色の屋根とクリーム色の壁の1階建てのグループホームがある。当地に移転して10年を経過する中で、昨年職員みんなで見直しして作成した事業所理念に沿いながら「ひとり一人を大切に、自宅にいた時と同じような生活スタイル」が継続できるよう支援に取り組んでいる。運営推進会議の充実や外出支援にも力を入れている。外部評価調査直前に管理職の異動交代があり、まだ慣れない業務の中で管理者は、前管理者のサポートを受けながら職員と共に現状のケアを継続し、培ってきた地域との交流や外出支援を更に深めていきたいと意欲的な抱負を保有している。環境に恵まれた地域の中で、入居者は散歩をしたり趣味の折り紙で作品を作り自室や廊下を飾ったり、入居者同士語りながらゆったり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との連絡、連携をとり、利用者・職員とも地元住民の一員として活動、生活をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春のお祭りや盆踊りなど地域の行事に参加し、地元住民の方々と交流したり、時として地元の方の収穫した農作物を分けていただいたりして交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開いて地元の代表者に施設の運営や状況をお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で季節ごとの活動報告をし、それに対する意見交換をしながら地域密着型の施設運営を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の福祉関係部署の方にも参加していただき、施設の運営状況などを説明し、時には情報を発信し、またアドバイスいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで身体拘束にあたる事例などの勉強会を開き、職員に理解を求め、利用者にできるだけ自由に安心して生活出来る環境を提供している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで虐待にあたる事例をなどの勉強会を開き、言葉遣いにも注意し、利用者楽しく生活出来る環境づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を活用してみえる利用者はいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定があった場合、事前に書面などで案内通知し、会議などで改めて報告し、ご理解ご納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族が面会にみえた時、ご家族からの要望や意見を聞き、今後の介護に反映するようにしている。また利用者との会話の中から意見や希望を聞き取り、個人記録に残し、できるだけレクや活動に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行い、職員の意見や提案を反映される機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤簿などで勤務状態やどのような理由で残業したか、また残業時間など把握できる状況を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修があればアナウンスし、個人のスキルに応じた研修に参加できる体勢を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に参加し、お互いの情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から綿密な面談等を行い、自立度に応じたケアプランを立て、それを反映しながら職員に落とし込み、職員全員が同じケアを出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からご家族からも面談を行い、利用者本人が気づいていないようなケアの必要箇所を聞き取り、局員全員と共有し、日々の生活に反映できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何が出来て何が出来ないかを見極め、初期の段階でのケアを職員で共有し、利用者本人がストレス無く生活できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の趣味や嗜好を把握し、日常会話の中で取り上げ、楽しく日々生活できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の家族通信で利用者本人の近況を報告し、状況をご家族と共有しながらご家族の代わりとして利用者を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人が訪問された時は必ず当人同士だけで会話出来るスペースを設け、またお墓参りやお祭りなどのイベントに参加できる機会を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う利用者同士をできるだけ同じテーブルに配置するなど会話することで、より楽しい生活としての環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほかへ移設したとか転院した場合も先方と情報交換し、利用者本人とご家族、先方の施設と情報を共有し、これからのケアの助けとなるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者との日常会話の中から希望や気持ちを聞き取り、できるだけその希望に添えるよう、また叶えられるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒアリングなどでできるだけ本人の意向にそえるよう、その意向に沿い、ごく自然に生活出来るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や引き継ぎの申し送り事項で普段とは違う状況を有した場合の共通理解を常に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや引き継ぎの申し送り事項で上がった課題に対して改善策を見出し、すぐに反映させて効果が出ればケアプランにも取り入れていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日職員が気づいたことを記録し、また必須項目を必ず記録して情報の共有に努めている。またそれに対し、より適したケアの方法があった場合より迅速に対処できるよう記録の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば決められた時間に決められたケアをするだけでなく、ご家族などから希望があれば柔軟にアレンジしながら対処していく事を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域・地元から食材を仕入れたり、また収穫などのお手伝いをしたりして地域社会との共存を常に意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続と情報共有により、利用者に異変があれば直に対応していただける関係をご家族に代わり構築している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と個人記録や引き継ぎ等の情報を共有しなにかあれば直ぐに看護師と連絡を取り対処できる体勢作りをこころがけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院に至るまでの状況を個人記録を基に遡り、情報を共有することで退院が早まるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予めご家族から終末期の希望と方法を模索し、摺り合わせ、より良い方法で終末期を迎えるためのお手伝いさせていただける準備を常日頃心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	組織内外の実践研修に参加し、個々のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署から職員を派遣して頂き、避難訓練の実践と訓練後のアドバイスをいただいで有事の際の備えをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や外部に漏らさない事を徹底し、また利用者さんに対しても”お客様”という感覚で言葉遣いなど注意して接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたいところ、食べたいもの、会いたい人など可能であれば希望が叶うよう常日頃、模索している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけストレスが溜まることの無いよう利用者本人の希望の沿うような、生活パターンに合うようなケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	装飾品や腕時計など利用者個人の思い入れのあるものは、介護に差し障りなければ身に付けて生活していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューや旬の食材をできるだけ楽しんで頂けるよう、また個々の嗜好に合うものを把握した上で食事を楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の個人記録から水分、食事の摂取量を把握し、偏りの無いような工夫し、便秘時の摂取量の調整や水分補給のタイミングなど常に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合う方法で歯ブラシ、マウススポンジを使い分けて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できるだけ失禁の無いようにトイレ介助、声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	2日おきに朝食でヨーグルトを召し上げていただく、食材に食物繊維の多いものを食べていただく、また水分を摂っていただくなど、それでも便秘がちなら便秘薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2日、入浴をしていただいている。ただ入浴の日にちと時間はパターンが決まっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午前、午後に居室にて休息をしていただいている。ただ昼夜逆転することも考慮し長時間の昼寝にならないよう配慮している。また日中傾眠傾向が強い方は無理には起こさないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬のパターンは個々に把握している。ただ効果効能についての理解は必ずしも十分ではない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々のヒストリーを聞き出し、昔の楽しい思い出などを利用者さんの方から話し出して喜んでいただいたり、また懐メロ番組で歌を一緒に口づさんで共に懐かしむなどして気分転換を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を見に散歩をしたり、お誕生日に外食をしたり、近所の喫茶店でお茶とデザートを楽しんだり、利用者個々の必要品を買いに買い物をしたりなど、外出を楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	低額ではあるが、利用者個々によっては自由に使えるお金を御家族の理解を許可のもと所持、使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は頻繁に使用は知ていないが、手紙などが届いた時はプライバシー保護を遵守した上でご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人は施設内で過ごすことが多いのでできるだけ季節感を味わっていただくとう季節を感じさせる掲示物を飾ったりしている。また居室では不快な匂いを消すように据え置き型の消臭芳香剤を置いたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とリビングの行き来は基本的には自由であり、個々の生活パターンにあった居場所を提供している。お茶なども利用者によっては、自由に飲んでいただいたりしてつろいでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品、写真など持ち込み、貼り付けは特に制約はしていない。ご家族の理解の元、個々の思い出とともに暮らしていただくとう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの暮らしをサポートする、という感覚で共同生活の場であり、プライバシーもあるアパートでもあり、最終的には自立支援の場であり、それを職員がお手伝いし安心安全に暮らしていく場を提供させていただいています。		